伸びる事が出來ないのではあるまいかと思はれる歐米人の丈の高いのは、大厦高樓の内に起居して緩つたりとして居るから、自然氣持も鷹揚になるし、又丈が高くなるのでは有るまいか、自分は常も斯ふ言ふやうに思つてゐる、望むらくは吾國でも、可成家屋の建築などは、歐米風に倣つて室内には椅子、机などにして欲しい、佛國のステール婦人は斯う言つて居る「建築は凝結せる音樂なり」全く味ふべき言葉である、自分は獨逸へ遊學中、或る田舍の婆さんの所へ、下宿して居た事がある其田舍の百姓家とも言ふやうな一室でさへも、吾國の國務大臣秘書官室位の値打はある。

▲貧乏に慣れた國　數年來東京でも市區改正と言ふので頻に道路を擴げては居るが道路の幅と兩側の家屋とは全く不調和で、隨分可笑しいやうである、これも段段と立派な者が出來るではあらうが今の處歐米諸國の觀光團が來ても、聊か氣まりの惡い次第である、歐洲大陸の内でも、佛國から英國へ上陸して、汽車へ乘込むと、何となく英國の富有な國であると言ふ事が胸に浮んで來る、汽車室でさへも實に立派なもので事々物々悉く完備して、一つとして眼を驚かせない物は無い、吾國では古から貧乏には慣れて居るから、何とも思はないであらうが今後は擧國一致、實踐躬行、列國に耻ない富有の國となつて、市區改正の道路に副ふやうな、大建築物に住居して、室内の裝飾に心目を樂しませるやうな、生活にして貴い度いのである。

英國人の家庭

宮川壽美子氏談

▲私は、英國の健全な家庭を觀察して、如何に、家庭教育が、國民の氣風に多大の影響を及ぼすかと云ふ事を、しみ〳〵と深く感じた一人で御座います。

▲御承知通り、日本の家庭では、親子が本位になつて居りまして、凡ての禮儀作法道德は是れから割り出されますが、英國では、夫婦が本位でござ

いますから、男子でも獨身の間は、父母の膝下に生活致しますが、一度結婚をして妻を迎へますれば、別居して全く父母とは獨立するのであります彼等は是れが普通の禮儀だと心得て居ります。

▲扨て、此事が非常に國民性に關係して居りますのは、第一自由と云ふ點であります、素より家庭は我等が王城なりと云ふ觀念が夫婦の胸に在りますので彼等は誠に自由で御座います。家庭内の事は凡て思ふ通りになります處から、少しも氣兼ねがない、從つて、女子でも氣分がスッパリして思ふ通りを口外する、例へば、貴女の御子息樣は大層よく學校でお出來になります相でと申しますと日本の御婦人ならば、イ、エとか何とか云ふ處をYes, he is very good と卒直に答へます。

▲第二には殖民事業でございます、日本人の樣に良人計り出稼ぎに行く事は無い、彼等は、ニュージランドへ行かうが、シンガポールへ參らうが、必らず夫婦手を携へて共稼ぎであります。家庭を持つて參ります、換言すれば、倫敦を各殖民地に移す事が出來るのであります。乃で永住せむ新世界には精神上の慰安も必要とせられ、宗教も發達する、學園の花も咲くと申す有樣、英國の殖民地が益々發展するのも尤ではございませんか。

▲第三に、夫婦本位は、國民に獨立心を盛んにさせます。何故なら親は親で、子供の世話にはならぬ樣に心掛け、子供は子供で、成る可く親から助力を受けぬ樣一日も早く獨立を希ふからであります。

▲以上擧げた處で見ると夫婦本位は、誠に結構な事許りの樣ですが必ずしもさうではない。其結果は非常に個人主義となりまして、親子間の美はしい情が皆無となります。私は、英國の樣な Work-house の發達を悲しむ者であります。立派な子がありながら、救育院に暮して居る老人を見る度に私は小部分に行はるゝ日本の慈善事業を尊重せずに居られませんでした。

▲次に親子兄弟姉妹及び姑と嫁とが別居する英國の家庭では、克己の精神を養はれる事が、何うも乏しい樣に感ぜられます。姑は嫁に對して少し不滿足を感じ、不平を持つて居りましても、朝夕穏

やかな一家に波風を起すでもあるまい、マア〳〵何時か折も來やうと怒りも何も嚥み下す小姑もさう、又嫁は嫁で、私さへじつと堪へて居ればと己に克つて辛抱する、斯うした風で、親子本位の日本の家庭には、美しい、又力强い精神が養はれますが、英國の人々は、年若い折から、其樣な境遇に置かれて居りませぬから、此點は到底、日本人に及ばないのでございます。

▲然し、私共が、誠に羨ましく思ひ、又學びたいと思ふのは、英國の家庭に於ける精神敎育であります。私は是れこそ國民性を立派にする所以の者であると信ずるのでございます。

▲英國はキリスト敎國でございますから、素より家庭に於ける精神敎育の中心はキリスト敎であります。

▲一家團樂の食卓で、父樣又は母樣が、其日の糧を與へ給ひし喜びや又遠方にある人々が無事の感謝の禱りを神に獻げるのは、普通の事でございますがそれを時々は練習の爲めとて子供達にさせる事がございます。又度々夜九時半頃になりますと家族祈禱會を開きまして此時には下女下男に至る迄一堂に集り家內が一つ心に禱るのであります。

▲幼い時から、箸の上げ下ろしにも、斯樣な敎育を受けて居ります子供達は只だ何となく、成長して參りますが、扱て、幼時の印象は、誠に、深刻なものでございます。彼等が他日成育して、敎育を享ける爲めに、或ひは又何か事業の爲めに、親の膝下を離れます時、而して、親しい友に別れ、知己に捨てられ、悲哀に逢ふ時、先づ思ひ出すのは、食卓の感謝でございます、彼の夜の祈禱でございます、失意する時、悲境に沈淪する折、父母は、兄弟は、我爲めに禱つて下さるから、必らず神樣は私と共に在つて救ひ給ふとの信仰は、軈て凡ての不幸に打勝たして境遇を支配する力强い、「自分は自分で行る！」人を作るのであります。

▲英國の子供は、斯うして、父母から、無形の友達―絶對善―神―の紹介を與へられるのでございます。

▲唯だ家庭に於て計りではありませぬ、英國では日曜の朝は、凡ての會堂の鐘樓から、カン〳〵カ

ンと絶間なく鐘の音が響きます、此響は今日一日と禮拜を怠らむとする國民を教會に呼ぶものであります、國民の信仰を覺まして、社會的精神教育をする響であります。

▲英國の母は子供を幼稚園や學校に託す時、人の評判に依つて又は入學者の多少に依つて我子の教育處を定めませぬ。必らず其園主なり、校長に面會して、其人格を信じての後に教育を託します。

▲又家庭に在つては、殊に男兒のお行儀に注意して常に無晴に叱る計りでなく、「お前は立派な紳士ではないか」と云ふ育て方を致します、夫れ故に幾程、亂暴な男兒でも、「立派な紳士」と云ふ自信を傷けられる事が嫌やさに、謹み深くなるのであります日本でも自づからそのしきたりはありまして、男子を先きに立てる事は出來て居りますけれども、まだ〳〵、日本のお母樣の氣の付かぬ事が多い爲めに、男兒が成長するに夜おそくまでお酒を飲んで、他人の迷惑も思はずドンチャン騒いだりする事があるのは、誠に嘆かはしい次第でございます。

▲英國の家庭から國民に感化を及ぼすのは、以上述べた通りでありますが、考へて見ますと、日本の家庭の親子本位は、即ち先祖崇拜の美はしい人情から起つたもの、神前や佛壇への朝夕の禮拜は、英國の家族祈禱會と同じ意味のもの、何うか日本特有の美點を失はない樣にして、我々は益ゝ家庭教育を進歩させたいものだとつくづく感じるのでございます。

兒童と金錢

鳩山春子夫人談

▲貯蓄思想の涵養　私の實驗に依りますと子供が未だ幼稚園に通つて居る時代から貯蓄思想を涵養する事が最も大切であらうと思ひます、無論幼稚園時代には金錢の勘定も出來ない位のものですから其如何許り貴いものであるかなど云ふ事の解らう筈はありませぬが夫れが段々成長して來るに伴れて自然金錢の尊いものである事を知り得るので